



平成22年度一般会計補正予算
(第2号)を可決しました。

債務負担行為補正

Q 新町小学校校舎増築借り上げ
経費の内容について。

A 学校教育課主席主幹 今年度当初の児童数を把握し、その児童数の今後の推移を見込んだところ、クラス数が2クラスほど不足することが予測されたため、普通教室2クラス分の増築をするものである。

特別支援教育推進事業

Q 県の委託を受けて、特別支援教育推進事業を実施するに至った経緯と、事業の内容は。

A 教育センター所長 今年度か

ら県が、県内7市町を特別支援重点推進地域に指定し、発達障害に係る専門家を巡回支援員として派遣することになった。本市がこの指定を受け、巡回支援員を35回派遣してもらうものである。

Q 県内7市町の中に本市が指定された理由は。

A 教育センター所長 これまで本市が特別支援教育なかよし学級の設置を進めてきたこと、発達情緒の通級指導教室を設置してきたことなどが評価されたので

はないかと考えている。特に、発達情緒の通級指導教室を設置している市町村は少なく、近隣では川越市だけである。こうした姿勢が評価を受けたと考えられる。



▼一般会計補正予算の内訳 (単位：千円)

歳入(財源)の内訳	補正額
県支出金	578
歳入合計	578
歳出(使途)の内訳	補正額
教育費	578
歳出合計	578

市の考えを問う
一般質問

6月10日・11日・14日の3日間行われた一般質問の主な質問(Q)と答弁(A)の概要を掲載します。

Q

交流圏構想とスポーツ施設

A

綿密な計画のもと進めていく

齊藤 芳久 議員

質問一 埼玉県農業大学校跡地にスポーツ施設設置の計画について。

二 企業誘致の場合の道路、下水道対策について。

三 市民が利用していく場合の土地の利用について。

四 県及び近隣市との協議の進め方について。

五 企業敷地面積による固定資産税の収入の予想について。

六 緑と大谷川の水源の保全について。

答弁一(市長) 市の全体計画との整合性を図りつつ県とともにあらゆる可能性を追求していく。

二 今後構想の具体化に合わせてさまざまなシミュレーションを行い、インフラ整備についても調整を図っていく。

三 地元の意向をくみ取りながら、



農業大学校内のサッカー場

市民の皆さんに広く活用されるスペースの創出に努めていく。

四 県からは、県庁内の関係部局、本市及び川越市、日高市の周辺地元自治体、学識経験者を交えた協議を行っていくと聞いている。

五 これから形づくられる状況の中で、現段階ではお答えが難しい。

六 大谷川源流の会を初め、市民の皆さんと一緒に、県とも協力しながら緑や湧水、小川の保全活用に努めていく。